

# 内服管理に向けた 内服薬管理フローシートの作成



**獨協医科大学病院 看護部 セイフティマネージャー委員会**

佐藤 晃子 菅沼 良恵 神馬 千登勢 鈴木 佳世子 小山 喜代美



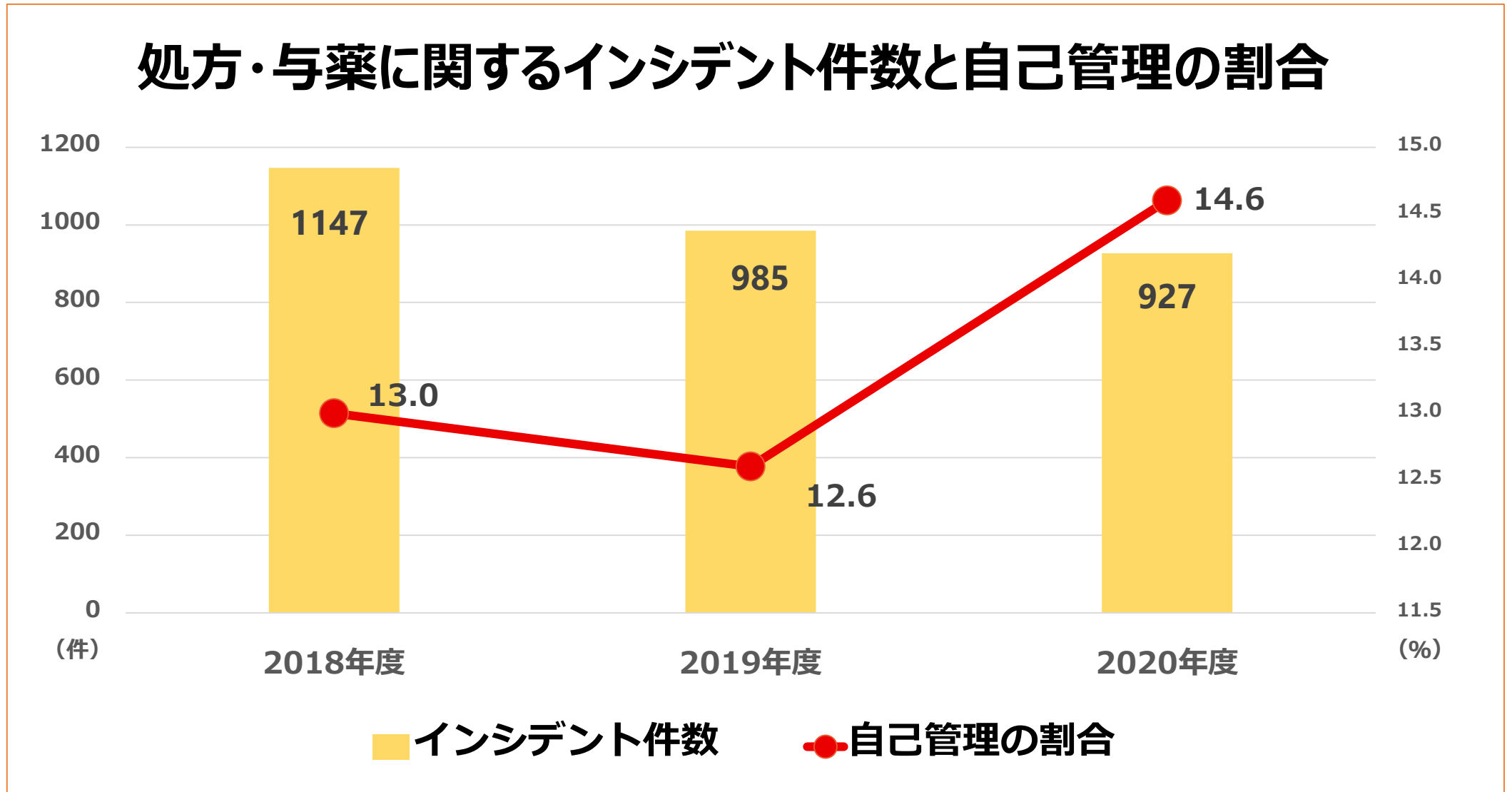
# 令和4年度 獨協医科大学教育セミナー COI開示

筆頭発表者名：佐藤 晃子

演題発表に関連し、  
開示すべきCOI関係にある企業などはありません



# はじめに



自己管理：入院時に内服薬自己管理表を用いてすべてが「できる」と評価され、実施できる状態

# I. 研究目的

内服自己管理におけるインシデント報告から、  
服用過程における発生要因を明らかにし、適切な内服  
管理方法を決定できる内服薬管理フローシートの作成



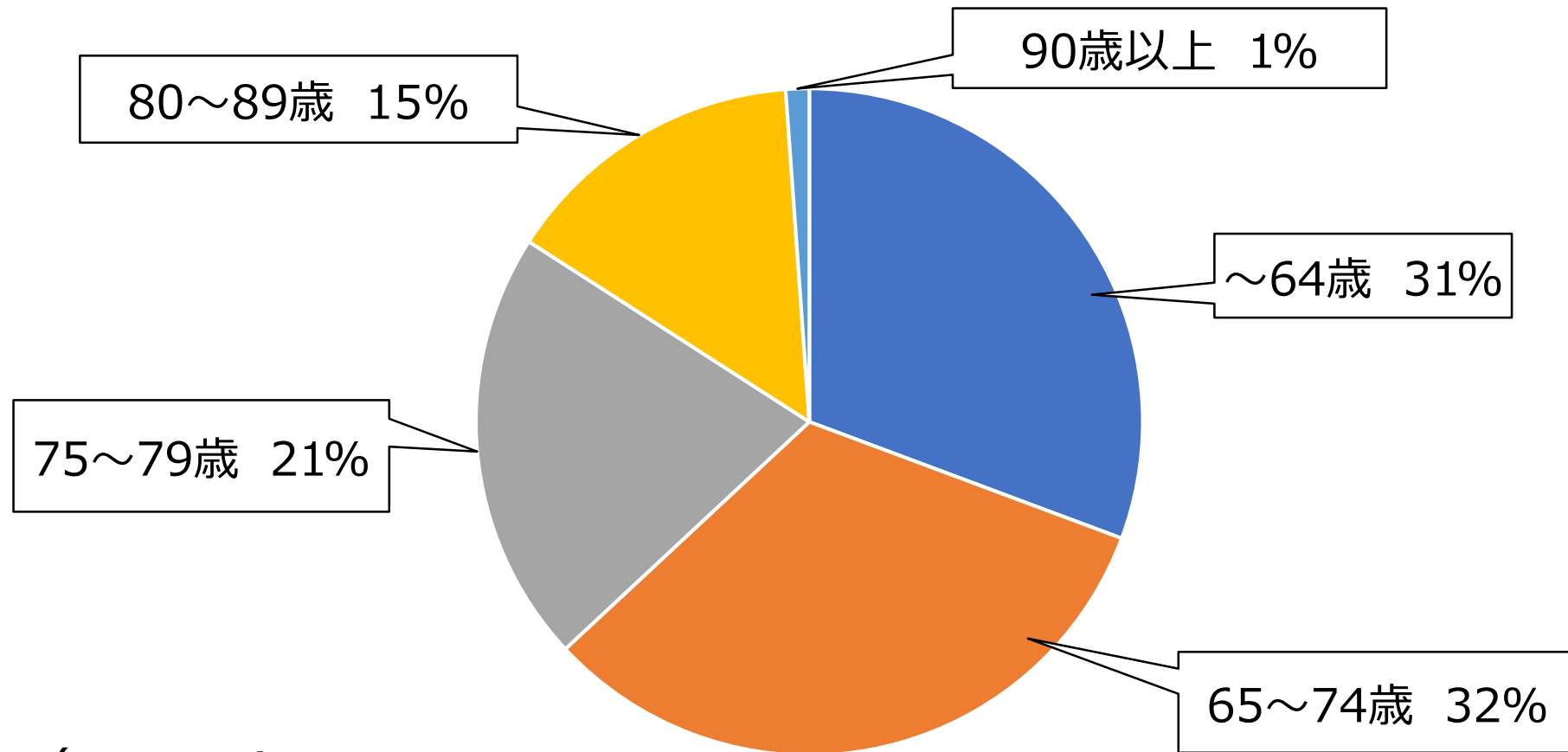
## Ⅱ. 研究方法

1. 対象：2020年4月1日～2021年3月31日にA大学病院で発生した内服薬自己管理に関するインシデント報告
2. 調査方法
  - 1) インシデント報告を下記の服用過程に分類し、要因を抽出する。
    - ①自己管理の評価 ②患者への指導・説明 ③薬剤渡し
    - ④内服の実施 ⑤実施前後の確認・観察 ⑥その他
  - 2) 内服管理方法を検討し、内服薬管理フローシートを作成する。
3. 倫理的配慮：獨協医科大学病院 臨床研究審査委員会の承諾を得た (病看29141号)

# Ⅲ. 結果

期間中の与薬・処方に関するインシデントは941件であった。  
内服薬自己管理に関するインシデントは176件（18.7%）であった。

【内服自己管理のインシデント発生患者年齢】

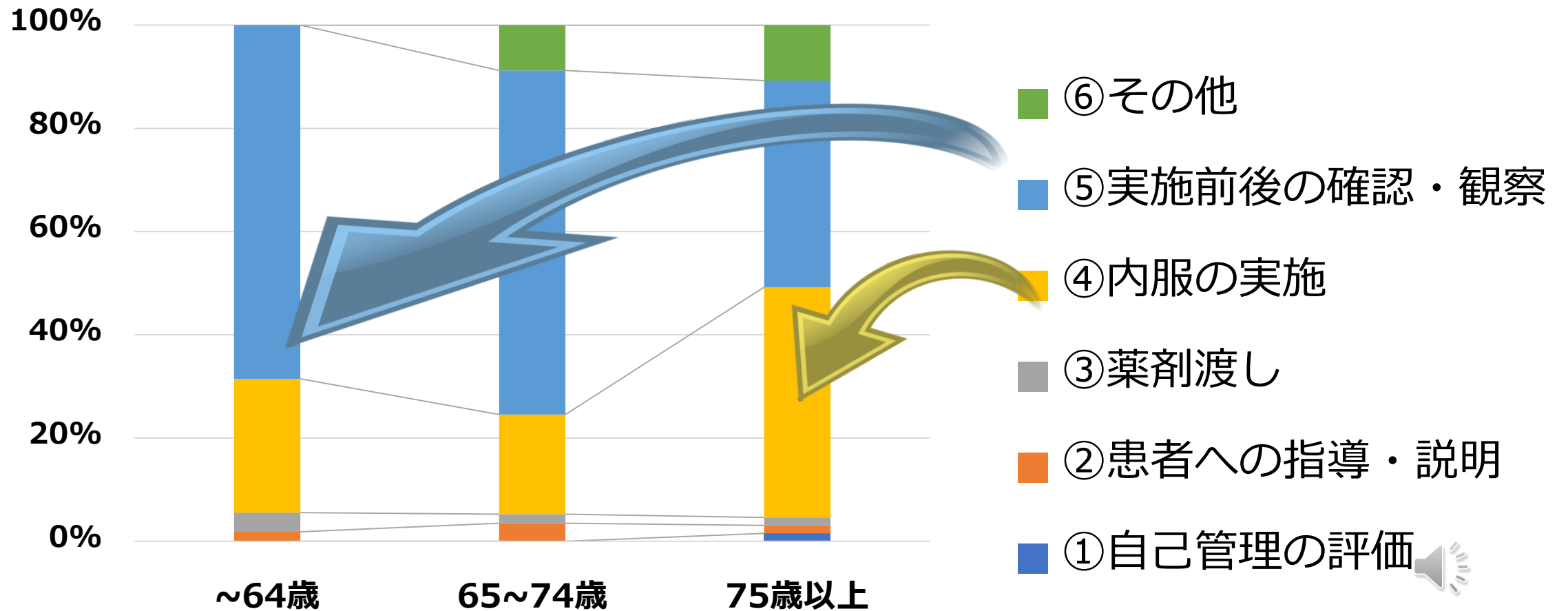


(n=176)




# Ⅲ. 結果

## 年代別の内服自己管理インシデント発生時の服用過程



# 旧内服薬自己管理評価表

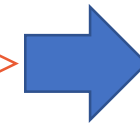
認知機能に関するもの	・日常会話が成り立つ。	思い込みによる内服薬の不足、 看護師の確認後の追加服用 などが生じていた。
	・指示動作がとれる。	
	・服用理解を理解できる。	
	・服用方法・効能が答えられる。	
	・内服薬に対して不満がない。	
	・内服の自己管理に同意できる。	
自己管理行動に関するもの	・薬袋に書いてある服用方法が理解できる。	問診の 評価のみ
	・薬を取り出せる。	
	・薬包を開封できる。	
	・こぼさず口まで運んで、飲める。	
	・薬の保管場所が一定である。	
自己管理行動に関するもの	・入院前自己管理をしていた。	
	・自己管理していくことに意欲を持っている。	



# 新内服薬管理フローシート

実際に行動してもらい確認する

- ・意識障害、認知症がない
- ・薬袋の文字が見える
- ・両手でOKサインを作ることができる

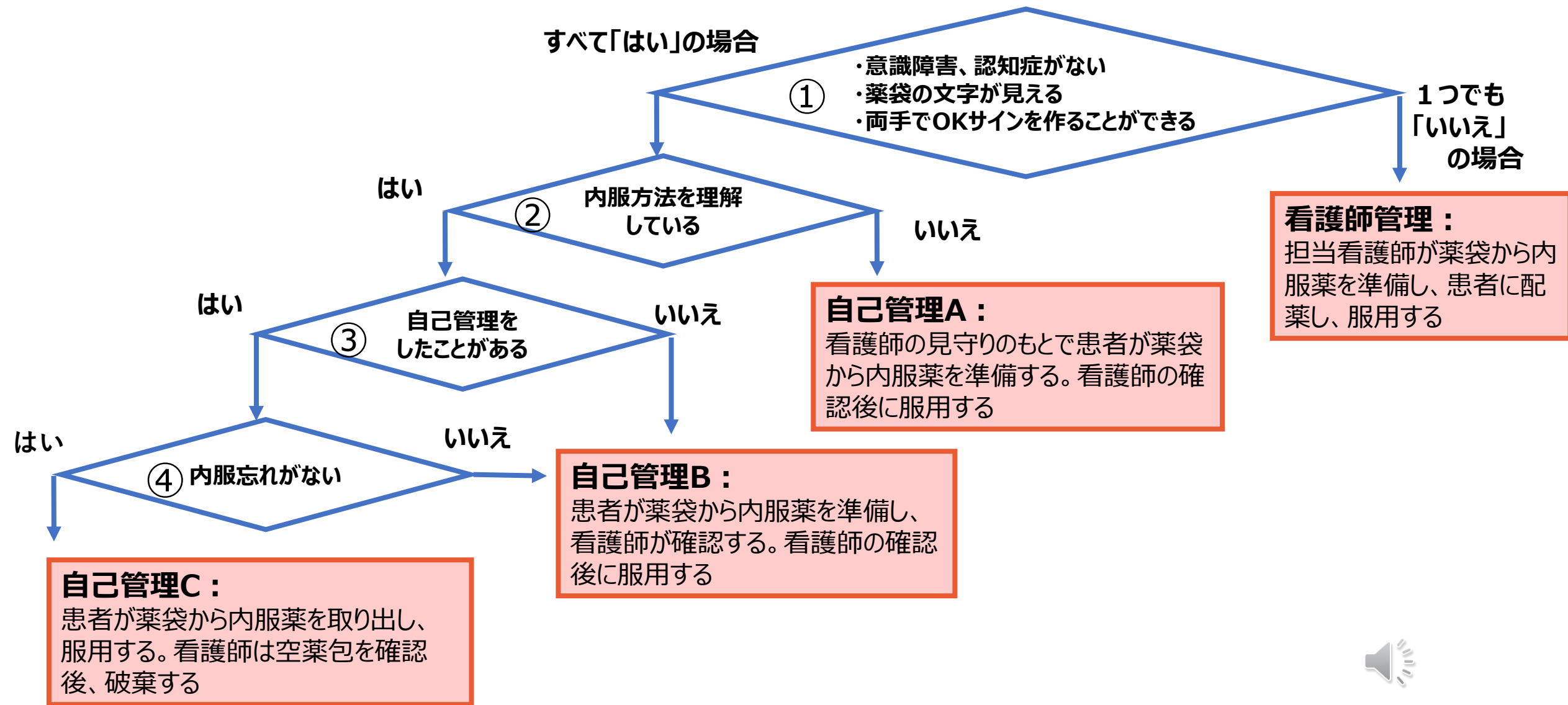


一つでも「いいえ」の場合  
看護師管理とした

誰が評価しても  
同一の評価となる



# Ⅲ. 結果：新内服管理フローシート



# IV. 考察

インシデント発生要因分析

服薬過程において年齢による発生頻度の違い  
指の震えがありながらの自己管理の実施



評価者による違いが生じにくい管理方法が明確な  
内服薬管理フローシート作成

今後の課題

手術後や検査後の内服管理について

同居家族の有無や生活パターンなど、  
内服管理に関する状況を  
考慮した指導や支援の必要

自宅での内服管理について

全身状態の悪化により  
せん妄や状況の理解が困難となる



## V. 結語

1. 年代別のインシデント発生の服用過程の要因は、64歳以下は「実施前後の確認・観察」が70%、75歳以上では「内服の実施」が45%であった。
2. 内服薬自己管理行動の判断項目は評価に違いを生じないことが重要である。
3. 内服自己管理は、患者の準備と服用、看護師の確認の時期と方法を明確にすることが必要である。



# 引用参考文献

1. 山田昌美：病棟薬剤関連業務ワーキンググループによる改善活動．患者安全推進ジャーナル．2017、No.48、p 30.
2. 塩見利明 他：服薬能力判定試験（J-RACT）について．看護の科学．1997、1、p 52-56.
3. 後藤興治 他：プロセス指向のチーム活動による誤薬防止の実践．医療の質・安全学会誌．2018、Vol.13、No.1、p 20-29.
4. 広瀬真実 他：看護師と薬剤師が共同で作成した内服薬自己管理基準の作成と運用．医薬ジャーナル．2013、Vol.49、No.9、p2236-2240.



ご清聴ありがとうございました

 獨協医科大学病院

